

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（案）（令和2年度第1回）

1. 日 時 令和2年6月18日（木）13:00～15:07
2. 場 所 戸畑キャンパス 本部棟2F会議室 and Web会議
3. 出席者 麻生委員，井上委員，梅本委員，小笠原委員，久保委員，久保田委員，  
高原委員，松岡委員，宮腰委員，山口委員  
（五十音順）  
学長，理事（研究・総務・国際・施設担当），理事（教育・学生・情報担当），  
理事（入試・計画評価・ダイバーシティ担当），理事（経営改革・財務担当），  
理事（広報・社会連携担当）  
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 近藤監事，林田監事，学長特別補佐，教養教育院長
5. 会議成立  
構成員19名のところ，19名の出席により定足数を満たしていることが確認された。
6. 新年度の挨拶 （資料2，資料6）  
学長から，会議に先立ち新年度の挨拶として，資料2及び資料6に基づき，昨年の  
取組と今年の抱負及び本学における新型コロナウイルス対応について，報告があった。  
なお，委員から次の意見があった。  
（○：学外委員，△：学内委員）
  - ： 第3期の目標を達成してもらいたい。新型コロナウイルス対応として  
は，学生への支援は，スピード感を持って対応してもらいたい。また，  
教職員が学生の立場に立って，学生支援を行ってもらいたい。
  - △： 本学独自の困窮している学生に返還不要の奨学金5万円が給付される  
制度は，手続きを簡素化・早期に給付できる仕組みとしているが，想定  
より申請が少ない状況である。また，令和2年度後期授業料についても  
全学もしくは一部を免除する支援を行う予定であり，引き続き，学内で  
情報を共有し，学生の立場に立った支援を実施したい。
  - ： 今後の取り組むべき課題にあった産学連携の深化について，非常に大  
事だと思う。インターンシップに力を入れてはどうか。インターンシッ  
プは，学生にとって，大学で学べない・提供できない体験ができ，企業  
との出会いの場であるため，学生にとって，現場を知り，視野拡大の機  
会になると思う。ぜひ，支援拡大に向けて取り組んでほしい。
  - △： 今までは研究において企業との連携を行ってきたが，教育においても，  
インターンシップを活用し，包括的に産業界と密接に連携しながら，取  
り組んでいきたい。
  - ： 共同研究契約実績の推移があるが，数年先まで将来予想を掲載しては  
どうか。また，九州に根付いた大学であるため，九州というキーワード  
で，九州で学べる強味をアピールしてはどうか。

- △： 入学者のうち九州全体は約72%であり、九州における様々な環境の学生が本学を目指してもらえるように、この北九州において学びやすい環境づくりに取り組んでいきたい。
- ： 遠隔授業の満足度が高いことは、うまくいっている印象である。また、工学系ではあるが、いろんな読書を進めていることは、非常に大事である。
- 今後については、外部環境が変化してきており、職員に対して、組織外の企業等と触れ合う機会を持つように、取り組んでもらいたい。
- △： 遠隔授業に係るアンケート結果をフィードバックして、改善に取り組んでいきたい。また、いただいた意見を参考に、組織外の企業等と触れ合う機会を設けていきたい。
- ： 国際化が進んでいるのに感銘を受けた。引き続き取り組んでもらいたい。
- 人口減少について、特に女子学生にアプローチをしてはどうか。企業での女子学生の採用が増えており、女子高校生に情報提供することが、人口減少への対応として重要であると思う。
- また、新たな国際化として、派遣だけでなく、様々な手段により取り組んでもらいたい。
- △： 女子学生の割合は、約13.8%とまだ少ないため、特に女子学生に対して、さらに情報発信をしていきたい。
- また、国際化については、海外に行けない状況となっているが、海外の大学と、電子コンテンツをお互いに交換するなど、これまでにない国際関係を作ることによって、国際的な環境に近づけていきたい。
- ： 新型コロナウイルスの影響として、就職活動に影響はあるか。
- △： 新型コロナウイルスの影響下での就職状況について、大学院生は、ほぼ影響がないようであるが、4年生については、大学院生に比べてやや遅れている状況である。また、就職先の企業・地域の選択に係る傾向については、影響はまだわからない。
- ： ポストコロナに向けて、全体最適化を意識して取り組んでもらいたい。
- また、新型コロナウイルスの対応として、実験・実習等はどう対応しているのか。
- △： 6月29日の第1クォーターまでは遠隔授業のみとし、第2クォーター以降、実験・実習等を行う予定である。また、産業医の指導の下、実験・実習や研究室での研究活動のためのガイドラインを設けており、ガイドラインに従い、対応を行っていく。
- ： 九工大独自の支援があるが、北九州市においても、学生、留学生を含め働く場を失った方を支援対象者に、緊急短期雇用創出事業を行っているので、ぜひ活用してもらいたい。
- ： ポストコロナでは、大学間競争のあり方が転換していくのではないかと。その中で、社会人も遠隔授業で学び直し行うなど、ネットワークを使い

つつ、次なる大学の在り方にチャレンジしていただきたい。

△： ネットワークにより距離がなくなったメリットを最大限に活かし、遠隔授業やリカレント教育等に向けて、積極的に取り組んでいきたい。併せて、大学の場所や周りの環境が大事となると考えるため、ものづくりの街にある、このキャンパスの魅力をどのように伝えるか、産業界と連携して検討したい。

○： 現場において授業以外に学ぶべき事があり、それが企業に入って活かせると考えるため、インターンシップなど、学生への機会の提供に取り組んでほしい。

## 7. 審議事項

### (1) 令和元年度決算について

(資料3)

理事（経営改革・財務担当）から、決算に伴う貸借対照表及び損益計算書等の概要について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

なお、委員から次の意見があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

○： この決算の評価をどのように考えているか。

△： 単年度で見れば、順調だが、施設・大型な実験設備の老朽化が進んでおり、国からの支援も見込みにくいため、その資金をどう捻出するかが、今後の課題である。

外部収入を増やし、運営費交付金に頼らないように、将来の財務構造の目標を立てて進めていくようなことについて検討している。

### (2) 内部質保証体制の整備に伴う関係諸規則等の制定改廃について

(資料4)

理事（入試・計画評価・ダイバーシティ担当）から、内部質保証体制の整備に伴う関係諸規則等の制定改廃について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

### (3) 経営協議会から選出する学長選考会議委員について

(資料5)

総務課長から、「学長選考会議の構成員に関する申し合わせ」の一部改正及び経営協議会委員から委員を選出することについて説明があり、審議の結果、了承された。

## 8. 報告事項

### (1) 本学の新型コロナウイルスの対応について

(資料6)

学長から、本学の新型コロナウイルスの対応について報告があった。

### (2) 大学機関別選択評価 選択評価C「教育の国際化の状況」受審に係る評価結果について

(資料7)

理事(入試・計画評価・ダイバーシティ担当)から、大学機関別選択評価選択評価C「教

育の国際化の状況」受審に係る評価結果が「目的の達成状況が極めて良好である。」ことについて、報告があった。

**(3) 令和2年度九州工業大学入試状況について**

**(資料8)**

理事(入試・計画評価・ダイバーシティ担当)から、令和2年度九州工業大学入試状況について報告があった。

なお、新型コロナウイルスの対応として、Webでの広報活動を積極的に行うための準備をしており、学科の魅力も伝えていくことについて補足説明があった。

**(4) 令和元年度卒業(修了)者の就職状況及び就職先について**

**(資料9)**

理事(教育・学生・情報担当)から、令和元年度卒業(修了)者の就職状況及び就職先について報告があった。

なお、次のような質疑応答があった。

(○：学外委員，△：学内委員)

○：福岡市の企業の多い業種は、IT関係企業とのことを伺い、北九州市においても、IT関係の企業誘致に、更に取り組んでいきたい。

△：住みやすい北九州市にオフィスがあることは、学生にとっても魅力的であり、本学としても、北九州市に協力していきたい。

**(5) 経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について**

**(資料10)**

学長から、経営協議会学外委員の意見を活用した法人運営の主な改善事例について報告があった。

**9. その他**

**(1) 令和2年度経営協議会の開催日程について**

**(資料11)**

総務課長から、令和2年度の経営協議会の開催日程について説明があった。